

令和7年度 京都大原学院 後期学校評価（最終報告）

学校教育目標

「大原のゆとりある心を自信をもって伝えられる子に!」

◎後期学校評価を実施し、学力分析テストの結果などを総合し、以下の（１）～（６）の項目ごとに後期学校評価（最終報告）としてまとめました。２月２０日開催の学校運営協議会での協議内容も反映しています。アンケートの回答ありがとうございました。

（１）「確かな学力」の育成に向けて

【分析】

前期ジョイントプログラムで２教科とも全市平均値を下回っていた学年が、国語は平均値より１ポイント下回ったが、その他４教科は大きく上回りました。全市平均より１５ポイントほど上回っている学年もあり、特に国語・英語では２０ポイントに近づくほど大きく上回りました。

学校評価アンケートでは、「できた、わかったという満足感をもって学習している」「自分の考えを相手にわかりやすく話している」という質問項目について、前期Ｂ生、中期Ｂ生、後期Ｂ生共に肯定的な回答が増えました。英語の学習についての質問項目、「英語を学んだり、使ったりするのは楽しい。」の回答で否定的な回答が減り、「ICTが使えるようになってきた」「i p a dを使ってする勉強は好きだ」という質問項目では、肯定的な回答をしています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

以上のことを踏まえて、本校では引き続き、基本的な学習のスタイルは維持しながら進めたいと考えます。全市平均を下回った学年については今後も個別に支援をいれていきたいと思ひます。学習については全体的に、大変健闘していると思ひます。「大原提言」の学習・発表時期を前倒しし、９月には本発表を行う予定で、８年生の３学期時より、活動をスタートし、調整を始めます。

【学校運営協議会より】

学力伸長の成果が出ていることは大変嬉しいです。とてもいい傾向だと思ひます。学校でも家でも数人集まって一緒に勉強しているようです。大原文化センターの活用も進んでいます。違う学年の先輩から教えてもらうことも学習のモチベーションにつながっていると思ひます。地域をあげて、維持・活用に取り組んでいきたいと思ひます。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

【分析】

前期・学校評価アンケートとの比較では、「自分がされていやなことは、他の人にしないようにしている」「挨拶は自分からしている」の質問項目で肯定的回答が増えました。「みんなが気持ちよく生活できるためのマナーを意識している。」という項目では、前期Ｂ生９７％→１００％、中期Ｂ生９７％→９７％、後期Ｂ生１００％→１００％と肯定的回答。「大原の自然や環境について関心を持ち、大原の素敵さをいくつか

挙げて話すことができる。」の項目でも肯定的回答、また後期回答は「学校の先生たちは自分の話をよく聞いてくれる」の肯定的回答は、前期Ｂ生１００％、中期Ｂ生９７％、後期Ｂ生１００％、保護者９４％となりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

学校評価アンケートの結果、微増ではあるが、本項記載「具体的な取り組み」の成果が伺える。引き続き、100%を目指し、取り組みを進めていきます。道徳の時間や総合的な学習の時間での取り組みも地域や日常生活の身近な疑問などに注目する視点を盛り込んで学習を行っています。取り組みが、子どもたちの中にもしっかり残っていることが伺えます。学習の柱である、９年生の「大原提言」と義務教育学校の強みである縦割り活動をさらに向上発展させていきたいと考えます。

【学校運営協議会より】

挨拶について、校内では一定、来校者への挨拶ができるようになってきているように感じます。校外で、朝の登校時などの挨拶を促していきたいと思います。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

【分析】

新体力テストの結果、令和６年度と令和７年度の比較では、総合評価ランクが男子児童生徒も女子児童生徒も上昇傾向がみられました。

保健室の利用状況はケガなどで訪れる学院生は前期と比べて少なくなっています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

学年の違いはあるが、Ａ・Ｂランクをひとつくりに考えてみると、男子は微増、女子については上位の比率があがっています。バドミントン部に所属している女子がほとんどのため、競技力向上にともない、体力テストの数値も向上していると思われます。保健室の来所は冬休みを前後に激減しています。前期課程の子ども達には引き続き、長続きする活動や遊びを、企画・提案することを考えていきます。後期課程では、運動部活動での取り組みの推奨を引き続きすすめ、体育の授業でも引き続き総合的な体力の向上を目指していきます。

【学校運営協議会より】

外で遊ぶことや、体育の授業での工夫など、引き続きお願いします。

（４）学校独自の取り組み

【分析】

学校評価アンケートの「『やってみたいこと』『なりたいもの』などがいくつか頭に浮かぶ。」「学校の学校が将来、社会に出たとき役に立つと思っている」では、肯定的回答がみられました。その他、「iPad使用について」の質問に肯定的回答、「友だちとの話し合いは好き」と回答した児童生徒も全校で９９％でした。「学校の学習は将来役に立つ」との回答も９９％。「学校に来ることで、自分は成長しているとおもう」

「能力を伸ばしてくれていると感じている」と回答している児童生徒も１００％に近いです。教職員のアンケートでもＩＣＴ活用の有効性を感じている教職員が１００％、主体的・対話的で深い学びを生み出そうと工夫を凝らす教員が多くみられます。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

総合的な学習の時間の時間数が多くなっているため、年間授業時間数と照らし合わせ、学習に必要な要素をしっかりと残し、活動の精選をする必要があると考えます。次年度の活動を楽しみにしている学院生が多くいるので、学習の内容は大きく変えず、少しずつ見直しを進めていきたいです。９年生「大原提言」の取り組みで、発表時期を２か月ほど前に行うことを来年度から実施する。１学期のうちに１次報告会まで終え、夏休みに本発表の準備を行うサイクルに移行する。教員からの学習についての新しい提案を受け、取り組みを行うことなど奨励していきます。

後期学校評価アンケート結果から、数値の若干の増減はあるが、本校の総合的な学習の時間「大人になる科」の取り組みの成果が出ていると考える。多くの地域の大人が学校の学習に協力していただき、充実した取り組みになっており、多くの団体から注目をいただいているので、これからも続けていきます。

【学校運営協議会より】

新しい取り組みでも、毎週行っていくと、子どもたちの中にも飽きが出てくるので、それについての対策を考えていきたいと思います。

学校の活動で、多く発表をしていたので、力がついていることを卒業後感じると、多くの卒業生が話しているそうです。多くの団体からの視察を受けていることを誇らしく思います。学校の運営費を増額してもらえたらいいですね。

（５）教職員の働き方改革について

【分析】

後期、学校評価教職員のアンケートでも、「職場では同僚に相談しやすい雰囲気がある。」「職場には働きやすさを感じている。」の項目で肯定的な回答が今年も１００％でした。

時間外勤務時間の縮減については前年度と比較して、大きくは変わっていないが、さらに縮減が進んでいます。職員室の雰囲気もよく、細やかな指導が必要な時も多く教員により意見交換がなされ、子どもたちへの指導にいきています。休日の部活動指導を担う教員や、管理職の時間外勤務に支えられているので、バランスをとりながら取り組みを進めていきます。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

ブロックごとに相談する雰囲気を醸成することを引き続き行います。学年ごとにダブル担任制を実施し、チームの強化を図る。学校評価アンケートのリニューアルにともない、以前学校運営協議会の理事会で提案のあった、教職員にも「学校は楽しいか」「来年度もこの学校に勤めたいか」「学校での仕事にやりがいを感じているか」などの質問項目をいれ、実施を行いたいです。

【学校運営協議会より】

すぐーの活用で、先生方の働き方が少し改善されたと伺っています。見落としのないように工夫がありますが、他のものも活用を進めていけたらいいと思います。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

【分析】

後期学校評価アンケートでは、児童生徒アンケート項目のうち、「学校の先生は自分の話をよく聞いてくれる」「学校に来るのがすきだ」「先生たちは信頼できる」が肯定的回答をしています

今年度は、本市としても全校でいじめアンケートの複数回実施を行いました。「友だちからされたことで、いやな思いをしたことはありますか」との質問に「はい」と回答した児童生徒には、教育相談などを活用し、丁寧に聞き取りをおこない、学年に応じて適切な指導をすることができたと考えています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

いじめアンケートだけでは子どもたちの思いを把握できないことがあります。引き続き、積極的に児童生徒に聞き取りを行い、家庭訪問・懇談会などを活用し、家庭との信頼関係構築、情報共通を行ってきます。

【学校運営協議会・大原プロジェクト委員会より】

いじめを理由に学校に登校できていない学院生はいないと確認ができ、一定安心しました。登校できていない子どもにも、オンラインなどの活用で、少しでも学校の様子を分かってもらって、学習が進められることを期待しています。